

あおい通信 第71号

世評・時評

今から三十数年前、証券マンの友人が「今迄は金のある処に金が集まると言われていたが、これからは情報の在る所に金が集まる時代」と言った。成る程その後、情報は産業になり、貧富の差が拡大した。

情報機器の目覚ましい開発と、約二十年前に世界中にインターネットの網が張り廻らされ、今では瞬時にして世界中の殆どの情報が手に入る。携帯電話は多機能情報端末機器とさえ言われるが、その利便性と同時に

弊害も生まれ、国家の極秘情報がネット上で暴露されたり、大学の入試でカンニングや相撲の八百長の手段に使われたりもする。

最近の中近東での革命の波は、若者の間にネットが普及したとされる。情報には国家を引っくり返す程の力があるのだから、受け取る側に風評やニセ情報に惑わされない的確な判断が必要となる。

この度の東北地方大地震では、情報網が壊れて必要な情報が伝わらず大混乱が生じた。折角の多機能端末も、一斉に使用

されると回線がパンクして不通になる。正しい情報が伝わらないと色々な憶測や疑惑を生じ、混乱に輪をかける。

我々は如何に日常生活の多くを、電気に頼って生活しているか、停電すると、通信ばかりでなく交通機関、照明、暖房、エレベーター等々、数え切れない不便が生じる。

これからも暫くの間は原子力発電に頼らざるを得ないと思うが、もっと安全な発電方法が開発されることを願う。

(やぶにらみ)



写真・文 七海邦夫
神保町1-1 三省堂前 →

いつも賑わう神田の書店街

東京江戸散歩 その貳拾九 神田・お茶の水⑤

この駿河台界限は、江戸時代にはほとんどが旗本屋敷であり、南の神田錦町は広大な火除空地であった。この広大な敷地に江戸時代から学校が立ち始めた。安政三年（一八五六）には九段下に蕃所調所ができ、文久二年（一八六二）神田錦町の一ツ橋門外に移って洋学調所となった。明治二年（一八六九）大学南校（後の東大）となり、近所には外国語学校（東外大）や商業学校（一橋大）などが出来た。

この官立学校の教師は南の大手町に住む官員であった。

この広大な土地は、明治二三年（一八九〇）三菱会社に払い下げられ、三菱は中心地区を商業と娯楽の町として開発し、三つの芝居小屋が公演を競い合った。寄せ太鼓の賑やかな音が響く芝居町の賑わいは大正時代まで続いた。

三崎座は明治二四年に開演、小規模ながら、日本で始めての座付女優による芝居興行で有名になった。関東大震災で焼けてしまったが、再建後神田劇場と名前を変え、昭和初期まで存続した。

川上座は「オツペケペー節」で有名な新派俳優の川上音次郎が明治一九

年（一八九六）創立、主に社会を風刺した壮士芝居書生芝居を上演した。明治三四年（一九〇二）改良座と名前を変えたが、客の入りはよくなく、経営難となりわずかに七年で閉演した。

東京座は明治三〇年（一八九七）に開演、三座の中では一番大きくて二千人以上が座れる客席があった。市川猿之助などの歌舞伎や高田実一座の新派を上演した。おとぎ話を劇化した「おとぎ芝居」なども人気を呼び、東京五大劇場の一つとも言われたが大正四年（一九一五）に廃座となった。

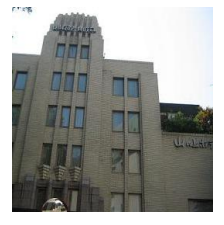
東京歯科大学と水道橋駅東口に挟まれた古い神社が三崎稲荷神社である。鎌倉時代に創建され、当初は神田山の上にあった。神田山が埋め立ての為に崩された際に低地（今の三崎町六辻）に移され、更に講武所が出来た際に神田川の堤防の上（水道橋駅ガード近く）に祀られた。そして明治二八年（一八九五）、甲武鉄道が万世橋まで延長することにより現在地に移転した。万世橋は、万治元年（一六六〇）に三崎橋からお茶の水を経て隅田川まで運河が東西に掘られた際、この神田上水の上を南北に流れる神田上水の樋が掛けられ、幾万年も保つようと万年橋の名前がついた。

駿河台の高台に立つクラシックなホテルは「山の上ホテル」で、日大理工

学部と明治大学の間に位置する。創業は昭和二九年（一九五四）で建物は昭和十二年（一九三七）の建築のものを使用して今でも富士山や秩父連山が見渡せ、昔から「文化人ホテル」として有名。池波正太郎や山口瞳など著名な作家達がカンヅメになって作品を仕上げた。

幕末の三剣士の一人千葉周作の道場、玄武館が神田お玉が池（今の岩本町）に開設された。教え方は分かり易く合理的で門弟三千人とも言われ大繁盛した。桃井春蔵の土学館、斉藤弥九郎の撃剣館と並んで江戸の三大道場と言われ、弟子には坂本竜馬、清川八郎、海保帆平らなどがいた。お玉が池端では、漢学の東条一堂の遙池塾と玄武館が隣り合わせだったので、「右文尚武」をキャッチフレーズに弟子集めを行った。

(次回は本郷界隈)



◆編集委員会より
「あおい通信」は、皆様からの原稿を募集しています。担当飯島迄お申し出ください。

近代醫 田中 幸太郎

田中 幸太郎

入院するほどの病氣も怪我もせず傘寿を迎えた。

「ぼらで飽きっぽい性格だったからストレスが少ない。それが健康にプラスだったと思ってる。」

何時か痛くない病氣が怪我で入院してみたい等と罰当たりの事を思っていたら、高齢者検診の結果、念のためのMRIで「隠れ心筋梗塞」と診断され、カテーテル風船手術で冠動脈にステント三本留置して九死に一生を得た。

入院体験の目的は達成したが、食事の不味さと時間に拘束された日々には懲りごりだった。

幸い言語、手足に後遺症はなく、朝寝を楽しみ、昼寝もし、大河ドラマも欠かさず見て、三度の食事でもバランスよく摂れ、人並みに三時のお茶請けを楽しみ、平均寿命を過ぎた。「余生は大切な妻とこんな生活も許さ

ながら何となくその日その日が過ぎ、それが続いているような毎日を通り越していた。

昨年三月、区役所から介護予防サービス支援計画で「葵」で元気を貰ったと言われた。社会

老春と焼酎

川上 靖子

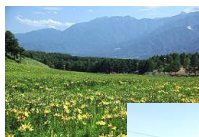
あれは大分前の秋のことであつた。友達の一人も一水会の委員の深沢紅子先生に就いて、これも一心不乱の勉強ぶり。

その彼女が来宅して、いきなり「富士見高原の友達に遊びに行かないか？ 誰か友達を誘って来いといわれたの。だから一緒に来」と言う。

彼女は紅子先生に「彼女は五〇歳が花盛り、子供も夫も皆、自分を持っているのに、女性は疲れて自分を失っている。自分をしっかり保つ

て、最後の花を精一杯咲かせましょう。決して年をとったと思わないで。まだ若いよ。」と聞かされていたという。

五〇歳半ば、年をとったなアと悲観的な考えが頭を過り、大きな希望など持ちようもない気分だった私は、「えッ、あの堀辰雄の風立ちぬの富士見高原に行く？ 連れて行って！」と言う事になり明るく日早速中央線へ。



富士見高原のユリ群生地



堀辰雄自身も入院した場所である

彼の手作りと言う妙なサウナに彼女と入りサッパリ。いよいよ今晩のすき焼きの支度に入ると門

交流の機会が少なくなつてからの現住居のため、隣近所に知り合いが無く、「閉じこもりにならないように、地域の人たちの交流を通じて地域の情報も得られるので、是非通つて楽しんでほしい」と妻にも勧められた。今では等身大の生活に戻れたことに感謝している。

老夫婦二人だけの生活の中ではこれといった話題もなく、と言つて未知の時間を想像するのも難しく、老いた頭脳を活性化するとともに癒しにもなっているのはデジカメとパソコン。

デジカメで撮った画像をパソコンに転入、Eメールで送受信したり、古

い写真を復元してアルバム作製したり、ユーチューブでトビックス、WWE、懐かしのメロディ、カラオケ等を楽しみスカイプでオーストラリアに留学中の孫と国際電話をする等々、私たちにとつて今では無くてはならない生活必需品である。



東久留米駅「富士見テラス」からの眺望。(本人撮影)

のところにライトバンが停まり、中からワイワイガヤガヤ賑やかな男達が出て来て、女関で来たぞう！！と怒鳴って入って来た。私達、そんな来訪者のことは何も聞いていないので驚いた。「ワ、すきやきだア」と喜びの声。やがて御一行様は、大泉にあった撮影所の監督、助監督の連中と分かった。上等の焼酎二本のお土産……。それからが大騒ぎ。一升瓶二本を持って隣の牧場の牛乳を買いはじまり。大鍋のすき焼きを見る見るからっぽ！

万里の長城

高橋 カツ

一、八達嶺の山なみ(ハッタツレイ)雲の彼方に連なる。万里の長城は遙かに続く。秦の始皇帝の以前より、香き歴史を語るが如く(トオキ)延々と連なる。

二、烽火台に佇てば(タテバ)古の人々の血と汗の労苦のため息がかすかに聞こえて来るかのやうに愛する妻子や親を後にし、遠く故郷を離れ来てこの長城を築きし。当時の幾百万の民の嘆きがかもっているかのやう

三、今平和裡にあなたの国の人々が蟻の如くにこの長城に登り又下る急勾配の斜面に佇てば只感無量昔を偲び涙しつづつたり

めて下さつた。焼酎も飲んでだ事も無いのにと、一口なめて見てビックリ！とてもトテモおもしろい。いつまでもお邪魔してもと、友達と部屋に帰り寝てしまった。

翌朝私達が起きて来た時、御一行様は私達によるらしくと言つて帰られた由。私達はそれから彼のアトリエを拝見。これにも驚いた。広いアトリエの中は仁王様の絵ばかり。それも一五〇号位。方々のお寺で頼まれて描いてるとの事。それから八ヶ岳の小品を二枚描いて帰

葵友の会 広報コーナー

この度発生しました「東北・関東大震災」被災者の皆さんに対し、衷心よりお見舞いを申し上げます。

さて、友の会活動ですが、3月18日予定の「カヲクケ」は中止とし、また、同日開催予定の「総会」は順延とさせて頂きましたのでご了承下さい。

今後の日程は、改めてご案内致します。この災害は、当面収束する気配を見せておりませんが、私共「葵友の会」は、「敢えて」前向きに活動して行きたいと思ひます。宜しくお願ひします。(事務局)

あおい俳壇

江ノ電や土産の浅刺(浅刺)

春一番帽子追いかけて叫ぶ声

寒き日の夫待つ湯気やあらい汁

貞子

廣子

匡子

私達の全く知らなかった竜宮城の楽しかったり、驚いたりの一日。あの時以来、私は焼酎の牛乳割りを毎日少しずつ飲んでる。世の中は全く広いと、今更の様に感じるこの頃である。